

# ヤマト福祉財団 NEWS

Yamato Welfare Foundation 2010 Winter

1月20日発行 No25

第10回ヤマト福祉財団 小倉昌男賞

## 雇用創出のトップランナーへ



写真前列左より受賞された中崎ひとみさん、大場俊孝さん、大場氏令夫人

後列左より石田哲也ヤマト運輸労働組合中央執行委員長、有富慶二ヤマト福祉財団理事長、瀬戸 薫ヤマトホールディングス株式会社代表取締役社長、木川 眞ヤマト運輸株式会社代表取締役社長

クロネコメール便配達特別報告会 IN 仙台

お客さまからの「ありがとう」に  
「どういたしまして 仕事ですから」と。

スワン工舎 卒業生訪問2 僕たちにピッタリの仕事を見つけました

この街で一緒に生きていく  
障がい者のクロネコメール便  
配達

一つまた一つと、夢を増やしながら  
メール便配達6年目。

YWF TOPICS

# 雇用創出のトップランナーへ

平成21年12月4日／東京・日本工業倶楽部



障がい者の自立支援に尽力された方々を表彰、応援する「小倉昌男賞」も今年で10回目の節目を迎えました。

全国から推薦された数々のすぐれた候補者の中から厳正な選考の結果、本年度の受賞は、宮城県栗原市の「NPOステップアップ」理事長で株式会社大場製作所の代表取締役・大場俊孝さん。そして、滋賀県大津市の社会福祉法人「共生シンフォニー」常務理事で就労継続支援A型事業所「がんばカンパニー」所長・中崎ひとみさんの両名に決まりました。お二人とも障がいのある方の雇用について、先駆的な発想を実行に移して効果を上げており、大きな期待が寄せられています。

両受賞者には、賞状ならびに正賞として、彫刻家・兩宮淳氏（日本芸術院会員）による、ブロンズ像と副賞の賞金が有富理事長より贈呈されました。

贈呈式の冒頭、有富理事長は「大場製作所さんでは総社員52名に対し、障がいのある方が10名！これは法定雇用率（1.8%）をはるかにしのぐ数字です。そしていづれの方も定着されています。さらに地域の仲間の経営者さんに声をかけ、23社協同でNPO法人「栗



公務で欠席された佐藤勇・栗原市長の代理として、大場さんの推薦理由を語る小澤敏郎・栗原市市民生活部部長



大場俊孝さん  
多段階の教育訓練方式の開発や、企業発の就職支援ネットワークの構築など、精神障がい者の雇用に大場さんを中心に、地域一体となって成果を上げています



中崎さんの推薦人、柳田勉・社会福祉法人大津市社会福祉協議会会長に代わって、挨拶する同協議会副参事の山口浩次氏



中崎ひとみさん  
障がい者、高齢者、就職困難などが分け隔てなく働くクッキー工場「がんばカンパニー」を、周囲が目を見張るまでに育てあげた中崎ひとみさん

働く仲間として、友人として公私ともに中崎ひとみさんを支えてこられた本郷良江さんに花束が贈られました



原市障害者就労支援センター（ステップアップ）を設立し、職場実習など段階を追った就労支援と雇用を進めていらつしやいます」と、経営者の視点で次々と新しい仕組みを生み出し、成果を上げる大場さんの手腕を讃えました。

がんばカンパニーでクッキーを販売している中崎さんについては「通常の製菓メーカーとスクラッチ（ハンドナシ）で勝負して負けていない！ 年商が1億3500万円というのですから、すごいことです。品質はもちろんのこと、設備投資からマーケティング、販売まで色々な工夫をされていて、経営のセオリーを着実に実行していると感じます。こうした努力が平均月給約11万9000円を実現させているわけです」と紹介し、大場さん、中崎さんに賞をお贈りできることはうれし限り、語りました。



ご来賓の木倉敬之  
厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部長



選考委員会の講評をする今野由梨氏（ダイヤル・サービス株式会社 代表取締役社長）



ご来賓の社会福祉法人 恩賜財団済生会 理事長 炭谷茂氏



左から勝又(社)ゼンコロ会長、今野ダイヤルサービス(株)社長、中崎ひとみさんと関係者のみなさん

# 祝賀会



大場俊孝さんご夫妻と関係者のみなさん

## お祝いの俳句

毎年恒例となった、受賞者お二人を詠んだお祝いの句が、俳人の花田春兆さんより贈られました。



■大場俊孝さんへの句

白鳥も

人も安らぐ

村ひとつ

■中崎ひとみさんへの句

香り立つ

クッキー白息

豊かな朝

花田春兆さんより「お祝いの句に寄せて」

大場さん、中崎さんおめでとうございます。この賞の持つ意味の大きさ・重さは、認められ報われたという満足感も与えているのではないのでしょうか。これまでの苦労がしのべられます。大場さんの句には「村ぐるみ」と「村ひとつ」とどちらかにするか迷いましたが、地域が「へ一つになつて」を強調する意味も含めました。一方中崎さんの句は、「息白し」にクッキーの焼き上がる湯気を絡ませて、豊かさを出しました。

受賞の  
ことば

## 支援さえあれば 誰でも、誰もが働ける

精神障がい者の社会適応訓練の協力事業主が私の活動の原点です。そこから地域、宮城県、全国へと活動の幅が広がり、今では本業が何なのか分からないほどに。しかし、これも家族の理解があつてこそです。もともと頑張れと妻は叱咤激励します。社員の上手なフォローにも助けられています。また地域には、賛同し協力を惜しまない23社の小規模企業経営者の仲間たちがいます。栗原市をはじめ支援してくださる関係機関のみなさま、私を指導してくださるたくさんの先達もいらっしゃると思います。こうした方々にまず感謝します。

頼関係です。とくに病気について正しく開示することが重要です。約20年前から当社では取り組み、いまではごく当たり前のことになりました。障がい者雇用の要は社員教育であると、この経験から自信を持って言えます。つぎに当社では助成金を活用して相談室を作りました。生まれた悩みを即、解決するためです。でも（職場で悩みが生じる）のは健常者だつて同じこと。職場環境の整備は全員にとって価値のあることです。

今年、私は還暦を迎えました。あと何年頑張れるか分かりませんが、この受賞を契機に、もう一つ働く場を作りたいと思つています。すでに計画は仲間と準備中です。いただいた副賞は全額そちらに充当するつもりです。身体のおつづく限り、お手本になれる取り組みに挑戦していきたいと思つておりますので、今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。



大場俊孝さん

特定非営利活動法人 栗原市障害者就労支援センター「NPO ステップアップ」理事長  
株式会社 大場製作所 代表取締役

1949年 宮城県栗原市生まれ。1990年に株式会社大場製作所代表取締役に就任。96年から宮城県精神保健職親会会長、05年よりNPO全国精神障害者就労支援事業所連合会理事長、07年より厚生労働省・精神障害者 職業自立啓発事業の企画委員等を兼任。08年に地元栗原市でNPOステップアップを設立。企業による障害者就労移行支援事業への試みは全国初で注目される。

受賞の  
ことば

## 「働きたいんや」の気持ちに みんなで団結して応えていきます

私たちの作業所が立ち上がったのは1986年のこと。80年代から90年代前半にかけて、世の福祉の方々から「金儲けばかりしている」と、私たちの活動は評価されませんでした。しかし、障がいを持った人たちの（自分たちも働けるんや、働いてなにかあかんのや、稼ぎたいんや）という心からの叫びを原動力に頑張ってきました。こんな立派な賞に一時は辞退を考えましたが、滋賀県社会就労事業振興センターの高橋さんから「今こそ、やってきたことは正しかったとアピールする時だ」と叱られて、今日出てまいました。

重度の身体障がい者5人からスタートした作業所も現在はメンバーだけで32人に。クッキーを作り始めたのは98年からですが、最初は生焼けばかりで1日10袋がやつと。1袋作るのに千円かかっていました。

自信はありませんでしたが、その一年

前の97年には、（障がい者にだって労働権はあるはず）と思い、きちんと労働契約を結びました。これを機に工賃ではなく「給料」になった以上、なんとか儲けを出して、労働の対価である給料を払えなかったら訴えられる立場になつていたのです。

とはいえ、今でこそ売上も1億3000万を超え、給料も毎月払えます。しかし当時は、半年の遅配は当たり前。家に帰ったら、電気がつかない。あーあとと思つて関西電力に電話する…。トイレに入つたらついには水が流れない。これまた市役所に電話して「すみませんちゃんと払いますから」と。（笑） そんな苦労の連続でした。

3月には定員50名の新工場が完成する予定です。厳しい経済状況ですが、障がいのあるメンバーもいないメンバーも、団結して乗り越えていきたいと思つています。



中崎ひとみさん

社会福祉法人 共生シンフォニー 常務理事  
就労継続支援A型事業所 がんばカンパニー 所長

滋賀県甲賀郡信楽町生まれ。社会福祉協議会のヘルパー勤務等を経て、1992年、小規模作業所「今日も一日ががんばった本舗」に勤務。2000年に「がんばカンパニー」を設立し代表に。03年より共生シンフォニー常務理事。がんばカンパニーによるクッキー事業の成功はメディアにも取り上げられ、その秘密を学ぼうと全国から年500人以上の見学者が訪れる。

―宮城県栗原市に広がるもうひとつのサンクチュアリー―

# (株)大場製作所と NPO ステップアップの取り組み

精神障がいのある人が10人も就労している(株)大場製作所と理事企業23社の協力のもと  
職場適応訓練等に取り組むNPO ステップアップを訪問しました。



## 緊張感のある仕事もこなす

日本有数の水鳥越冬地、伊豆沼。ラムサール条約で神聖な領域(サンクチュアリー)として登録され、白鳥や雁が安心して翼を休む湖沼のそばに(株)大場製作所はあります。

リード線加工や自動車用ハーネスの製造のどの仕事も工程毎にマイクロゲージや導通検査装置で必ず検査する徹底ぶりで納品先も製品を省略するほどの品質を誇っています。万が一、不良品を出せば自動車の不良に直結する緊張感のある仕事ですが、精神障がいの人もその品質を立派に支えています。



本人のために保健所、ステップアップ、ハローワーク、就業・生活支援センターの担当者が一同に集まる「ケア会議」の様子。

## 将来設計のできる職場

その中のひとり、大場富美子さんはNPO ステップアップを利用して体調管理に自信をつけ、昨年大場製作所に就職しました。鳴子にある小規模作業所の紹介からNPO ステップアップの利用につながった大場さん―「仙台で療養した後、実家に戻ったときには何を始めるにしても周囲の人はどう思うだろう」という考えが先に立ちました。大場製作所に就職でき、今は将来設計を考えられるようになりました。周囲の人の目を気にせず働くことができ、とても気が楽です。―自信をもって仕事をしてほしいと願って大場社長が作り上げた職場は、周囲の人の見守りのおかげで安心して働けるとなっています。

## 充実した多段階方式

NPO ステップアップは、築館クリーンセンター高森ファーム内にある訓練所と栗原市西部地域活動支援センター内事務所の2つに分かれています。高森ファーム内



推薦者 栗原市長 佐藤 勇さん(写真左)は、大場社長のアイデアを住民サービスに活かしています。

## 手厚い栗原市の取り組み

推薦者である栗原市の佐藤 勇市長も大場製作所の取り組みに触発されたひとりです。多重債務解消やそれに伴う生活介護、メンタルヘルスなど住民の悩みを解決する相談窓口を設け、全国から注目されています。

震災から1年半、栗原市には市民のためのもうひとつのサンクチュアリーが広がっています。

大場社長と自分の体験をお話いただいた大場富美子さん(右)。



(株)大場製作所 従業員52名の内障がい者10名が働いています。



# 「夢は大きく「お菓子の安土城」」 「がんばカンパニー」の取り組み

障がい者従業員32名と健常者職員18名が共に働く（社福）共生シンフォニー 就労継続支援A型事業所「がんばカンパニー」を訪問しました。

## 静かな住宅街の中で

滋賀県大津市。クッキーの焼き上がる甘い香りに包まれながら住宅街と調和した平屋建ての「がんばカンパニー」が静かに佇んでいます。窓越しに中をのぞくと20人ほどが白衣を着て手早く作業している姿が見えました。その様子は毎日50万円以上焼き上げている正にお菓子の工場そのものです。

## 障がい者も雇用契約を

中崎ひとみさんは、「がんばカンパニー」の前身である共同作業所「今日も一日がんばった本舗」で雇用契約を結ぶという先駆的な取り組みを仲間と確立させました。

「企業に雇用されない人たちが集まって作業所を作った。そして、作業所を立ち上げてわかったこと



さつまいもクッキーも今日は天板96枚分焼き上げるそうです。

は、職員は労働権で守られているのに当事者はそうでない。だから当事者も雇用契約で守られるようにしたかったんです。」

## 障がいのある人もない人も

訪問した時間は、午後2時過ぎ。他の施設や作業所では、そろそろ後片付けもはじまるうかという時間ですが、「がんばカンパニー」では今がピーク。今日もあと天板36枚分焼き上げます。小さなクッキーにアクセントとなる3粒の黒ゴマを丁寧にトッピングする作業も手作りならではの。

また、隣の作業台では翌日のクッキー生地作りも始まっています。朝から夕方まで常にフル稼働となるように仕事工夫され、障がいのある人もない人もいっしょになつて効率よく作業しています。

## 袋詰め・発送作業も大忙し

こうして次々と焼き上げられたクッキーも専用室で袋詰めされた後、全国へ向けて発送されます。今年度は3月末までに売上1億8千万円に届く勢い。大量の注文と販売を支えるのは、健常者を中心としたスタッフのみなさん。



人海戦術で手作りクッキーが量産されます。

企業からのクリスマスギフト向けの大量受注や個人からの注文、会社や事業所へのルート販売の準備など、どれも売上を伸ばすために重要なものばかりです。

## 安土城の石積み

安土城は、自然石をそのまま利用する穴太積みという手法で築城されました。

「自分たちのやってきた障がいのある人もない人もいっしょに働くということは、穴太積みと同じだったと思います。大きな石も小さな石もその石なりの役目で強固に支えあっている。いつかは、お菓子の安土城を建てたいな。」

中崎さんの夢は、がんばカンパニーで追求した理想をお城のように確立することです。



袋詰めも衛生面に細心の注意を払っています。



お客さまからの「ありがとう」に

# 「どういたしまして 仕事ですから」と。

ヤマト福祉財団では、クロネコメール便を配達する施設・作業所のクロネコメイトさんによる特別報告会を全国で開催しています。12月12日、5回目となる報告会は、仙台の東北福祉大学総合福祉学部実学臨床研究室との共催で行いました。

東北福祉大学の学生とクロネコメイトのみなさん。前列右端が阿部一彦教授



## 「できること」を理解し 仕事に結び付ける支援を

現在、<sup>\*</sup>全国353カ所の施設で、1,381人のクロネコメイトさんがクロネコメール便の配達に從事しています。東北地区代表として今回、14施設・33名の当事者のみなさんが、約200名の来場者の前で報告を行いました。

報告会は、東北福祉大学総合福祉学部の阿部一彦教授による基調講演で始まりました。

「障がい者が、メール便配達を通して、自分もやればできる」ということを自覚していく、その姿をより多くの方が見て、可能性を理解していく。これはとても意義あることです。

また、障がい者を支援していく上で、「理解する」ことはとても大切です。障がい者は、日常生活・社会生活において、さまざまな制限に直面しています。例えば私は、足が不自由なのでエレベータができて、はじめてこの教室を使えるようになりました。環境条件を整備し、相応な制限を少なくする、そんな適切な支援があれば、本人にできることは増え、仕事に就く機会も広がっていきます。お互いをきちんと理解し、支え合うことで、共生社会はより成熟していくのです。

## 働くことが 当たり前前の光景に

続いてクロネコメイトさんと一緒に仕事を体験した学生によるク

ロネコメール便配達の実践体験報告が行われました。発表者の一人、大西修平さんは「責任や仕事の内容が何一つ変わらないのに、障がいがあることで、健常者と区別する現状は、とても不自然ではないでしょうか。障がいのある方が、社会の一員として働き、地域の人と交流を深めていくというクロネコメール便配達理念や目的に共感しました。これが当たり前の光景となるべきだと思います」と感想を話してくれました。

## 仕事を達成する喜びが 自信になる

当事者本人による報告では、さまざまな体験が語られました。

山形県・NPO法人みつばの伊東昌弘さんは「一件一件確認しながらで時間がかりましたが、自分一人で最後までやり遂げた時、大きな自信になりました」とうれしそうに報告しています。

福島県・ほっとハウスやすらぎの佐藤秀二さんは「カバンにぎっしり入ったメール便が徐々に減り、最後2〜3通になったときに、達成感を強く感じて、もっと頑張りたいな」と話しました。

## メール便配達で深まる 人と人とのつながり

学校に配達に行った際に出会った校長先生が、実は小学校の時の担任の先生だったという宮城県・七ヶ浜あさひ園の松浦剛士さん。「がんばっているね」と声をかけてもらえて、とてもうれしかった」

※2009年11月末日現在



報告会の最後にはヤマト運輸(株)東北支社の田原支社長が、クロネコメイトさんに応援の記念品を贈呈



報告会のあとで、来場者も一緒に楽しんだ交流茶話会



第一部では、東北福祉大学総合福祉学部の阿部一彦教授による基調講演に続き、実学臨床教育推進室の学生によるクロネコメール便配達実習体験報告が行われました。



ご協力ありがとうございました。みなさまのおかげでさらに、理解の輪が大きく広がります。  
 報告施設・作業所▼小規模作業所フラワーコート/NPO法人みつば/あすなるホーム/共同作業所社の家/さくら製作所/社福/新生活会/あさあけの園/社福/自立更生会/盛岡形生園/特定非営利活動法人はつとハウスやすらぎ/あさがお/社福/郡山コスモス会/ワークコスモス/七ヶ浜町あさひ園/社福/キングスガーデン宮城/幸町プランチ/ポツケの森/社福/みんなの輪わ・は・わ広瀬

雨の日も風の日もプロ意識で頑張る宮城県・ポツケの森の吉田智哉さん。「ありがとう」と声をかけられると「どういたしまして、仕事ですから」と笑顔で応えています。また、山形県・フラワーコートの小日向仁さんのように「健常者

### ■プロとしての責任と工夫

一方、体調が安定してきた方もいます。施設スタッフからは、いまままで休みがちだった方が、メール便配達があるからと毎日通うようになった。以前は2週間に一度だった診察が、3カ月に一度になった方もいる。などの報告も行われました。

### ■体調が安定した方も

と喜びを伝えてくれました。また、岩手県・杜の家の柏崎克人さんは「現在、2つのエリアを3人でこなしています。メンバーの中に調子のすぐれない仲間がいる時は、助け合って配達を続けています」とチームプレーの大切さについて語りました。地域に出て、お客さまからの、ありがとうの一言に大きな力をもたらしていること、メール便配達を通して人と人との関わりの大切さを学んだことなどを報告しています。

と同じ配達単価をもらっているというところは、健常者と同じ責任があるのだと思います」と仕事に誇りと責任を持って取り組んでいる報告が多数あります。

### ■そして、夢は広がっていく

さらに、こんな夢を語ってくれた方もいます。岩手県・あさあけの園の寒風信昭さんの目標は「メール便をもっと頑張つて、施設のみならず旅行に行くことです」。

岩手県・あすなるホームの村上愛さんは「ヤマト運輸のクロネコメイトとして契約社員になった先輩がいます。私も、早く先輩のように働きたいです」と、今後の抱負を語りました。これからもクロネコメール便配達事業を通して、クロネコメイトさんの夢を広げていく、共生社会を深めていく、そんなお役に立つことを願っています。

# 工賃月5万円をめざして

## 水耕栽培事業を育成中！



やまぶきハウスのみなさん



イタリアンや焼き肉など料理に合わせたセット野菜を販売



代表の小林明夫さん  
食品加工やレストラン運営等、  
工賃5万円へ向けて夢を話す



冷蔵庫の導入で大量出荷が可能になった



ナチュラル水耕栽培は温室を使わずに、自然の気温や風、光を受けられるネットハウス式。高設式の水耕栽培は腰をかかめる必要がなく、作業が楽というメリットがある

NPO法人・気分爽快  
地域活動支援センターやまぶきハウス  
所在地:愛知県田原市田原町北乗鞍 定員:25名

働く楽しさをみんなのものに！ そんな思いからスタートした（やまぶきハウス）。目指す工賃は現在の倍以上ですが、土をつかわない農法で、収益アップ作戦を展開中です。

生産量はまだ少ないが、手応え十分

愛知県の南端、渥美半島の田原市に昨年、地域活動支援センター（やまぶきハウス）が開所しました。利用者12名ほどの誕生したてのセンターですが、工賃5万円の早期実現を目指し、農業ビジネスに挑んでいます。自前の畑作や果樹園、近隣農業法人の契約作業の他、いま大

きな柱に育てようとしているのが「ナチュラル水耕栽培」でつくる葉物野菜の数々。レタスやルッコラ、クレソン、ミニセロリなどを1つにまとめ、「サラダ野菜セット」として道の駅などで販売し好評です。

そこで出荷量の増産・安定に欠かせない「野菜用プレハブ冷蔵庫庫の購入に、当財団の助成金を活用しました。

働く楽しみは奪えない

代表を務める小林明夫さんは元特別支援教員。いったん就職しても失敗してしまう子どもたちをたくさん見てきた経緯から、就労を意識した自立支援の必要性を痛感したと言います。「言葉にしてしまうとつまらないんですが、働くことは『人とのつながりの中で役に立っている』とか、物づくりや販売を通して『自分自身を表現できる』喜びがあります。障がいの重い軽いは関係ありません。なにかしら『やれる』ということは、誰にとってもうれしいことなんです」

農業と経営の素人集団の1年目。何をどのくらいの割合、周期で育てるのが合理的か、まだ試行錯誤の段階です。しかしながら2棟目の水耕栽培用ハウス建設も計画中。インパクトの強い野菜をサラダセットに加えた、より付加価値の高い商品開発にも取り組み、夢を追いかけたいです。

# 僕たちにピッタリの仕事を見つけました



今回は、主にユニフォームレンタル、クリーニングサービス事業を展開する株式会社ユニレックス様で、元気に働くOBを訪ねました。

■ ヤマト自立センター スワン工舎新産 就労に必要な知識や技術の習得～就労先とのマッチング、さらに就労後の定着まで。2006年より一貫した活動で、障がい者が地域で自立するための支援をしています。就労実績:40名

■ 株式会社ユニレックス 創業は昭和45年。クリーニング業のほか、ユニフォームレンタル、リネンサプライ等の分野で首都圏に拠点を構え、事業展開しています。



後藤裕哉さん(2009年9月21日入社)  
レストランで使用されるナブキンのローラープレスを担当。まだ日は浅いですが、仕事が好き、「この先ずっと続けていきたい」と抱負を語ります。お給料はきちんと貯金しているそうです。



守屋レイさん(2008年9月16日入社)  
「工場長、髪切った?」なんて、明るいやりとりも飛び出すほど職場に溶け込んでいます。クリーニング完了品の仕分け作業は、守屋さんの個性にぴたりとはまり、周囲に頼られる活躍ぶりです。



平尾秀照さん(2008年7月7日入社)  
一人暮らしをされていて、自分で生活費を稼ぎたいと毎日がんばっています。仕事ぶりは、淡々と1日100本以上のズボンプレスをごこなすプロフェッショナル! 「職場の人はみんなやさしい」と言います。

個性を見極めれば、  
誰でも楽しく働ける

東京都清瀬市にある株式会社ユニレックス本社工場で、クリーニング業務に励んでいるのは、すでに勤務歴一年以上の平尾さん、守屋さん。そして昨秋スワン工舎を卒業した後藤さんです。職場仲間の温かい目配りにも応えるように、3人は熱心に働いています。

ユニレックス様には「障がいのある/なし」という捉え方はいつさいありません。その証拠に現在、本社工場で働く約130名のパート社員のうち、障がいのある方は24名に上ります。中には20年以上出勤し、どんな担当業務でも的確にこなせるベテランとして、頼りにされる方もいるそうです。

パート社員に欠員が出た場合、「障がい者/健常者を分けるようなことはしていませんので、同時に募集をかけます」と語るのは、工場長の北沢剛伸さん。採用基準についてお伺いすると、「器用不器用はあまり関係ありません。130名がローテーションを組んで成り立っていますので、休まずに務められることのほうが重要です。得意不得意はそれぞれあるでしょうけれども、クリーニングにはさまざまな工程があります。

最初に受けていただく実習で、ちようど合う作業を探ることもできますし、繰り返しの仕事です。日々の業務の中で自然と身につけていきます。」  
障がいのある方とともに働くことについて、「個性にあった接し方をするように心がければ、なんの問題もありません。いっしょに働く一般パート社員が注意深く様子を見てくれたり、フォローしてくれるので、私としてはそういう情報をみんなで見守るようだけに注意しています」と、その秘訣を教えてくださいました。



本社工場 工場長 北沢剛伸さん



吉田順一さん これから始める人にアドバイスは?と尋ねると「無理をしないこと」と答えてくれました。最近はいいと旅行に出かけるのが、楽しみだそうです。薬局では手渡し。お店の方とはもうすっかり顔なじみです。

この街で、  
一緒に生きていく。



(財)ヤマト福祉財団  
障がい者のクロネコメール便配達事業

# 一つまた一つと、夢を増やしなが らメール便配達6年目。

東京都世田谷区でメール便配達事業を続けるしごとでは、全国353箇所(※)の参入施設で唯一雇用型のA型事業所。10人以上のメイトさんが働くこの事業所では、メール便配達事業のモデルケースとして、見学に来る方も多いといえます。メール便配達事業6年目を迎えたしごとでも、一期生としてメール便を配達してきた二人のメイトさんに会いました。

(※2009年11月末日現在)



2009年1月にしごとでは、ここ世田谷区の閑静な住宅街の一角に転居してきました。仕事量が増えたため、もっと広い場所を求めての転居です。壁一面にしまった仕分棚、エリアごとに分かれた作業台、届いたメール便を引き上げるリフトなど、ここではメール便配達を効率的にそして快適に運営する環境が整えられています。

この日稼働のメイトさんは10人。それぞれが慣れた様子で、テキパキと仕分作業を進めています。

その中でもひとときを集中して、今日の配達ルートマップに丁寧にマーキングしていたのが、吉田順一さん。彼はしごとでもがこの事業を始めたときに最初に参加したメイトさん。そして実は2005年、障がい者によるクロネコメール便配達事業が始まって最初に製作したリーフレットの、写真モデルにもなってくれた方でした。

一人暮らしの夢をかなえて、さらに多くのことを学んだ。

撮影から実に5年。再会した吉田さんは、この間になんと一人暮らしという夢をかなえていました。現在、彼の配達量は、全国の施設・作業所のメイトさんの中でもトップクラスを誇っています。

「始めた当初は、この仕事ができるようになるのが不安でした」と吉田さん。しかし実際に、施設職員のサポートを受けながら配達を体験してみると「1週間ぐらいで、すぐに慣れたんです」「街の人から、お疲れさまとか、ありがとうと声をかけられるのが、とても気分がよかったです」と話してくれました。

今では1日500冊をこなすこともある吉田さんは、この仕事が好きだと言います。実は地図を見るのが得意な吉田さん。新しいエリアを担当するのがうれしいのだそうです。「いつか、実家の周

一人になっても困らないよう、資格を取って就職したい。

もう一人、5年前に写真モデルを務めてくれた吉見安以さんも、吉田さんと同期生。「この仕事を始めてから、彼女は本当に変わりました」としごとでも施設長の藤原秋豊さんは笑顔で話します。「すぐく明るくなって、しっかりと向いていることが多かったり、

- 南東京主管支店 等々力支店  
面積9.59km<sup>2</sup> / 人口124,132人 / 世帯数60,003世帯
- 社会福祉法人はる「しごと」  
(就労継続支援A型事業所)  
世田谷区内に在住・在勤する精神障がい者ならびに高齢者が対象。メール便配達事業と清掃事業の2部門で運営。  
2004年12月メール便配達開始

「障がい者のクロネコメール便配達事業」  
お問い合わせは……(財)ヤマト福祉財団 押尾三枝子  
TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165  
e-mail y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp



朝、メール便引き取りを待つメイトさんたちと“しごと”の前で。左から メイトさんの吉見安以さん、久保伸幸さん、小松隆平さん、吉田順一さん、森田賢治さん ヤマト運輸 鈴木博幸支店長、福井健一課長、ヤマト福祉財団 樋口光徳事務長、藤倉正弘課長



ずっと並んだ仕分棚。これができるから、仕分作業が目に見えて速くなったそうです。



届いた大量のメール便は、リフトを使って運搬します。



吉見安以さん この仕事で人と話すのが楽しいと言います。資格を取得して就職したい、将来は一人でも困らないよう農業をやりたいという堅実派。

不安定なところがあつたんです。今は調子が悪くてもやれるだけやる。責任感ができました」  
藤原さんのこの言葉に、吉見さんも「はい、明るくなりました。お母さんが元気になったねと言ってくれます。街の人に声をかけられるのが、とてもうれしい」と笑います。その言葉のとおり、5年前の吉見さんと現在の彼女では、印象が変わっていました。話していても本当に楽しそう。  
「自信を持って働くことができるところになったんです。体力がついて、仕事のやり方をコントロールできるようになりました」と話します。

就職をめざす吉見さんは、さまざまな資格にも挑戦中。現在は漢字検定の試験を受けているところだそうです。「一人になっても困らないようにしたい。親に心配をかけない自分になりたいです」と夢を語ります。  
そして最後に、彼女の話しを聞いたたかな表情で聞いていた藤原施設長にポツリと言いました「藤原さんのおかげです。藤原さんは厳しいけど、やさしい」と。

**良い加減でやろう。**

藤原施設長は、障がい者がトライする仕事としてメール便配達とはとても合っていると話します。「無理のないところから始められて、徐々に自分のペースで可能性を高めていける。安心して仕事ができるんです。」「彼らはさまざまな場面で否定されてきました。そうして萎縮してきた彼らが、ひとつの仕事をまかされ、自分の力で街に出て行く。どんどんと自分に自信を持てるようになるんです。」

**ヤマト運輸にとっても、なくてはならない存在。**

この日のしごともの配達量は、2,730冊。1エリアから始まった担当エリアも、現在では



“しごと”藤原秋豊施設長。若いころに目指していた福祉の仕事が忘れられず、一般企業から2005年にこの現場に。“しごと”は2008年4月に雇用型のA型事業所を取得。最低賃金保障や労災・雇用保険加入などの義務があるA型。「実績を積むことで、シミュレーションができたので、不安はありませんでした」と自信を持って話します。

6エリアに広がっています。しごとものは、今やヤマト運輸にとってもなくてはならない存在となっています。  
等々力エリアの鈴木博幸支店長も彼らを信頼する一人。「とにかくはじめですから、安心してまかせられます」そして「多くの障がい者に、就労の入門篇としてメール便配達を体験して欲しい。次の道しるべをつくれる仕事だとも思っています」と話します。  
現在東京支社では、施設や作業所をこちらから開拓する活動を行っています。「彼らには本当に助けてもらっています。この事業がもっと広がる仕組みづくりをしたい」と藤倉正弘課長。「この事業はまだまだ多くの可能性を持っていると思います。障がいのある方にとってもヤマト運輸にとっても」と力強く語ってくれました。  
事業開始当初から、配達を続けている二人のメイトさん。かつてのリーフレット写真と見比べると、一人はたくましくなり、一人は笑顔がよく似合う明るい女性になっていました。  
障がいがあるうとなかろうと、仕事人が人を成長させる。そのことをあらためて教えてくれた二人。彼らのように、ひとりでも多くの障がい者が、仕事をとおして社会に参加し、夢を育めるように。メール便配達で、そんな社会への扉を開く力となることを願います。

「障害者の権利条約」の  
国内批准に向けて——  
元国連障害者権利条約特別委員会  
議長ドン・マッケイ氏を迎えて  
JDFセミナー開催



ドン・マッケイ氏による基調講演

「権利条約の原点とわが国の課題」と題した日本障害者フォーラム（JDF）のセミナーが、12月1日、灘尾ホール（東京・霞ヶ関）で開催されました。会場には海外からの参加者も含め350人が集まり、ドン・マッケイ氏の基調講演では立ったまま聞き入る人も。ドン・マッケイ氏は草案の起草、条約の交渉と成立に貢献した元国連障害者権利条約特別委員会議長です。講演では、条約の誕生から、採択に至る交渉の経過、課題に触れ、最後に「世界の障がい者運動の仲間がこの条約を作った。次は国内で、また世界で、この条約を完全に実施させることだ」ということばで締めくくりました。

パネルディスカッションでは、日本が権利条約に批准するための課題は何かというテーマで、「国内法の見直しが必要」「インクルーシブな社会の基準を作るべき」など、活発な意見が飛び交い、続いて地域でのワークショップや条例作りの取り組みについて報告がありました。批准に向け各地で活発な運動が進んでいます。

※この活動にヤマト福祉財団・損保ジャパン記念財団・キリン福祉財団が共同で助成をしています。



熱心に聞き入る参加者で会場が埋め尽くされた



パネリストたちによって活発な意見が交わされた

2009年パワーアップセミナー中級編  
工賃5万円をめざして、  
「行動革新宣言」を発表

ザ・プリンスホテルさくらタワーに全国から30名が集まり、10月15日～17日の3日間で2009年パワーアップセミナーの締めくくりに中級編を開催しました。

プログラムは工賃アップを実現させた施設長の報告や、ビジネスシミュレーションゲームを用意し、「教えてもらうのではなく、自分で気づく」という構成になっています。最終日には「何のための工賃アップなのか、目標はいつまでに何を達成するのか」など、3日間のセミナーでの気づきや成果を出すためにやらなければならないことをまとめ、最後に一人ひとりが全員の前で目指したい施設になるために自分が今日から行動する「行動革新宣言」を発表しました。



ご協力ありがとうございました  
2009スワンのX'マスケーキ

昨年12月のクリスマスケーキは全国のヤマト運輸、ヤマトグループ各社で83,386個と、前年より販売個数が大幅にアップしました。ご協力ありがとうございました。スワンでは「おいしいケーキ」を一般の方にもさらに認知していただけるよう、さまざまなチャレンジを続けていきます。

**安室光代さん(スワンベーカリー赤坂店)が  
アビリンピック全国大会で  
銅賞を受賞しました**



11月17日に東京都庁で行われたアビリンピック全国大会の表彰式  
前列左から2番目が安室さん

第31回全国障害者技能協議会（アビリンピック）が茨城県ひたちなか市で、昨年10月30日～11月1日の3日間で開催されました。スワンカフェ&ベーカリー赤坂店の安室光代さんが喫茶サービス種目の東京代表として出場。見事、銅賞に輝きました。

「店長やお店のスタッフと練習しました。競技は、お客様をご案内し、注文を承り、サービスをするというもの。全国大会に行ったのは初めてのことなので、本当に緊張しました。家族も喜んでくれました」と安室さん。この成果を自信にして、お店でも力を発揮しています。



「こんなに緊張したのははじめてです」と安室さん(中央)

**『鬼が笑う 月が泣く——「うたの森」に詠する詩・短歌・俳句』  
1月10日発売**

花田春兆さんが編集し、温かい寸評を書いています。日本障害者リハビリテーション協会発行の月刊誌「ノーマライゼーション」の巻頭に連載された人気コーナーが単行本になりました。百余名の作家による、和やかで、朗らかで、ちょっと哀しい詩・短歌・俳句は、戦後～現代における障がい者文学の集大成です。



花田春兆 編著  
発行：角川学芸出版  
定価：2,100円(税込み)



花田春兆さん

ビジネス  
コミュニケーション  
ゲームで新  
しい発見



3日間の学びをシートに書き出す

国立西洋美術館開館 50 周年記念事業  
**フランク・ブラングイン展**  
 伝説の英国人画家 —— 松方コレクション誕生の物語



《海賊バカニア》/  
 1892年/油彩、カン  
 ヴァス/ブライアン・  
 クラーク、ロンドン



《白鳥》/1920-21年/油彩、カンヴァス/  
 ウィリアム・モリス・ギャラリー、ロンドン



《フランク・ブラングインの肖像》/  
 1940年/写真/個人蔵/  
 Photo: LISSFINEART.COM



《りんご搾り》/1902年/油彩、カンヴァス/リス・ファイン・アート/Photo: LISSFINEART.COM



《松方幸次郎の肖像》/  
 1916年/油彩、カンヴァス  
 /個人蔵、東京

Information  
 of the Art

多彩な作品を残したブラングイン

ブラングインは絵画のみならず工芸や版画でも才を発揮し、海を渡りアメリカ、カナダで壁画を手がけるなど、当時を代表する芸術家として活躍。ブラングインの名は、夏目漱石の「それから」にも見つけることができま。本展は松方との関わりを軸に、ブラングイン芸術を回顧する日本初の試みです。ブラングインの鮮やかな才あふれ出す作品群をご堪能ください。本展の美術品取り扱いにヤマトロジステイクス株式会社が協力しています。

膨大な松方コレクションの遺産

実業家・松方幸次郎は川崎造船所（現・川崎重工）初代社長として隆盛を極める一方で、熱心な美術収集家の顔を持っていました。絵画や彫刻、海外に流出していた浮世絵など1920年代を中心にヨーロッパで買い付けた作品は数千点とも言われ、その一部が後に国立西洋美術館の礎となりました。そして、松方が彼の作品を購入するだけでなく、松方の収集を助けたのが英国人画家フランク・ブラングイン（1867-1956）です。

©DAVID BRANGWYN

開催期間 ▶ 2010年2月23日(火)～5月30日(日)

休館日 ▶ 毎週月曜日（ただし3月22日、5月3日は開館、3月23日は休館）

開催場所 ▶ 国立西洋美術館（東京 上野公園）  
 JR上野駅下車（公園口出口）徒歩1分  
 京成電鉄京成上野駅下車 徒歩7分  
 東京メトロ銀座線、日比谷線上野駅下車 徒歩8分

開館時間 ▶ 9:30～17:30 毎週金曜日は20:00まで  
 （入館は30分前まで）

観覧料 ▶

|    | 一般     | 大学生    | 高校生  |
|----|--------|--------|------|
| 当日 | 1,500円 | 1,200円 | 700円 |

○身体障害者手帳をお持ちの方および介護人1名様は入館料が無料となります（入館の際に障害者手帳をご提示ください）。

問い合わせ先 ▶

〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7

ハローダイヤル 03-5777-8600

国立西洋美術館HP <http://www.nmwa.go.jp>

公式ホームページ <http://www.fb2010.jp>

主催 ▶ 国立西洋美術館・読売新聞社

協賛 ▶ EPSON・清水建設・大日本印刷・アートよみうり

協力 ▶ 財団法人ポーラ美術振興財団・西洋美術振興財団

ヤマト福祉財団全国支部連絡先（ヤマト運輸（株）内）

| 支部      | 事務長  | 連絡先              |
|---------|------|------------------|
| 北海道支部   | 加藤房男 | TEL.011-891-5040 |
| 東北支部    | 小原 守 | TEL.022-374-8065 |
| 東京支部    | 樋口光徳 | TEL.03-5564-3705 |
| 関東支部    | 塚本良輔 | TEL.045-508-6106 |
| 関東支部東地区 | 平井 忠 | TEL.043-259-7364 |
| 北信越支部   | 青木浩昭 | TEL.025-231-9512 |
| 中部支部    | 矢野静香 | TEL.052-725-3633 |
| 関西支部    | 石田久雄 | TEL.06-6682-8570 |
| 中国支部    | 竹下憲雄 | TEL.082-849-1451 |
| 四国支部    | 内山 修 | TEL.0877-46-7875 |
| 九州支部    | 目野和彦 | TEL.092-931-3310 |
| 沖縄支部    | 古謝盛裕 | TEL.098-840-3605 |



東京支部  
 樋口光徳新事務長が就任しました。  
 よろしくお願いたします。

賛助会員個人51,609人 法人ヤマトグループ45社（2009年3月31日現在）

本誌の無断転載・転用を禁じます。©（財）ヤマト福祉財団

アメリカ大豆協会認定の大豆油インクを使用しています。

